

歴史の終焉

黒田インターナショナルコンサルティング

黒田 毅

全ての栄枯盛衰は、過去の全てである。その歴史が終焉を得ることは、永遠という未来への踏み絵であり、審判なのである。

過去が王と英雄の栄華を得ることは正しい。他方においては人々の筆舌にまさる苦しみが存在する。

人々がその責任を放棄し、栄華に猛進するとき、歴史は終わるのである。時が、選択を得ることは、人為においてもはや覆せないなのである。

世界は、その支えにおいて、現実を可能とする。それが責任という現実なのである。正しいということは責任と現実の正しいバランスなのである。

梟雄のもと、世界を奪うことは失うことに過ぎないのである。

明日を与えることが賢臣の人であり、明日を奪うことが亡国の臣の任なのである。

正しい行いは必ず報いられるのである。それは正しい生活のバランスであり、洗脳はこれらを完全に奪うことなのである。

正しい為政は常に未来を与えるのである。